

使えなくなってしまうた木造校舎
これまで

繰り返したあった大きな地しんでも
びくともしなかった私たちの木造校舎
それが、私たちの自まんだったのに

校庭の北側と南側にあつて
いつも、堂々とした姿で

私たちを見守つてくれていた木造校舎
おじいちゃんやおばあちゃんのように
やさしく、あたたかく

大好きだった木造校舎

木造校舎の思い出をむねに

大崎・古川一 澤田 葉

ダツ ダダダダダツ

新しい校舎を建てる音が聞こえる

そこには

私たちの大好きな

木造校舎があつた

三月十一日のあの地しんで

古い校舎にはなんだかとても合っていた
冬にはかべのすき間から
冷たい風がふきこんで

ろうかには雪がつもっていたことも
でも教室の真ん中にあつた
えんとつのついたストーブが

教室をあたたためてくれた
ストーブの小さいまどから見える
明るく勢いのよい炎は

私たちをあたたためてくれた

たくさんの思い出がつまった
木造校舎

来年は、もう新しい校舎が完成し

私たちは、六年生

木造校舎の姿はないけれど

木造校舎の思い出をわすれない
ずっとわすれない

木造校舎の思い出をむねに

新しい校舎と私たちとで

新しい一歩をふみだしていこうと思う